

一ヶ月前の赤岳日帰り登山の復習と極寒のテント泊体験を目的に、行者小屋テン泊赤岳を計画した。

初日、美濃戸口から行者小屋間は、約 24kg の荷物で非常に疲れた。しかし、次の日の天候悪化予報のため、テント設営後、文三郎尾根経由赤岳へ。途中疲れのため、ちょうど阿弥陀北稜登攀中の会のメンバーを見るふりをして、たびたび立ち止まる。文三郎尾根は登山者多く、山頂手前では渋滞に巻き込まれた。稜線ではそこそこ風があり、山頂では写真撮影後すぐに下山。地蔵尾根からの下りは人が少ない。下り初めにナイフリッジ状の箇所があり、そこを避けてなのか、左側の沢に下りていくトレースあり。下っていく人がいるが、積雪多く、雪崩の危険もありそうで少し心配。尾根通しに慎重に下りる。

テントに戻りぼかぼか陽気の中、昼寝。日没時刻に中山展望台偵察。夕焼けの赤岳、横岳、大同心、既に陰った阿弥陀岳が目の前に広がる。初めて訪れたがこんなに景色がいいとは！今まで来なかったことを後悔した。

夕食後、星が出ているため、再度中山展望台へ。星の写真を撮る。この時期にしては暖かいため、長時間頑張れそうだったが、雲が出たため、テントに戻りシュラフにもぐりこむ。就寝中、足がつる。本当に疲れていた模様。芍薬甘草湯でおさまる。最低気温はマイナス 15 度程度、極寒体験とはならなかった。

二日目、当初の予定（赤岳で日の出を見る）通り 3 時に起き、テントを撤収後下山。自宅に帰着 7 時。山からこんなに早い時刻に帰ったのは初めてだ。

写真 1 阿弥陀岳 北稜を会のメンバー登攀中



写真 2 展望荘から赤岳を望む



写真 3 ぼかぼか陽気の行者小屋テン場



写真 4 夕焼けの大同心

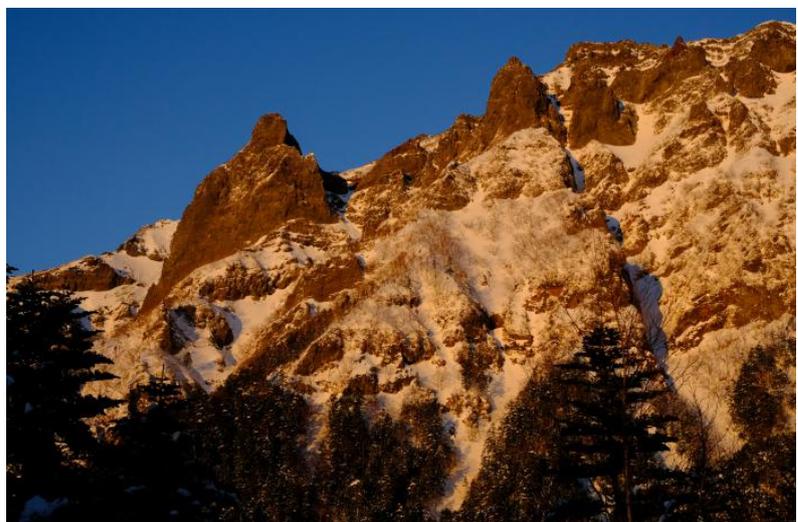


写真5 夜の赤岳と登るおおいぬ座



写真6 大同心から登る北斗七星



【コースタイム】

1日目

美濃戸口	6 : 0 0
美濃戸山荘	7 : 0 0
行者小屋	9 : 1 5 - 1 0 : 0 0
中岳分岐	1 1 : 1 0
赤岳	1 1 : 4 0
赤岳天望荘	1 2 : 0 0
地藏尾根分岐	1 2 : 3 0
行者小屋	1 3 : 0 0

2日目

行者小屋	4 : 3 0
美濃戸山荘	6 : 0 0
美濃戸口	6 : 4 5